

こんにちは！ 嘱託員の鈴木です。もうすぐ桜も咲き出しそうですね。

10日の日曜日、浅虫の湯の島にカタクリの花を見に行ってきました。前日は強風で船が欠航だったのですが、この日は晴れて気温も上がり、船で渡るには絶好の日和でした。



湯の島へ渡る船



湯の島



カタクリの花



白いカタクリ

浅虫の春の行事といえばこのカタクリ祭りが思い浮かびますが、かつて浅虫では春の行楽行事として旧暦3月3日に潮干狩りが行われていました。今年なら、ちょうど先週末くらいの時期にあたります。

大正2年(1913)からはその余興として宝探しを催すようになり、加えて福引や花火の打ち上げ、撮影会、仮装行列、湯の島めぐり、モーターボートによる遊覧など年を追うごとに様々な催しが増え、臨時列車も出て多くの人でにぎわいました。

この宝探しは、発起人たちが貝殻に番号札を入れてロウで封をし、海岸・道路・遊園地など浅虫温泉のあちこちにまいておいたものを探し当て、景品交換所に持っていくと様々な景品がもらえるというものでした。景品は青森市や浅虫の個人や商店からの寄附で準備され、大正時代中頃の新聞記事にある寄附品をみると、実用品では万年筆、サイダー、酒、石けん、化粧品、マルメロ缶詰など、面白いものではハーモニカ、夏みかん、絵はがき、新聞1ヶ月購読券、映画鑑賞券、佐久間ドロップス、当時は目新しい菓子だったカルミンなどがありました。上位の景品はなかなか豪華で、大正11年の特賞はタンス1棹^{さお}、12年は金指輪です。ただし、浅虫・久栗坂・土屋の人は拾っても景品交換の権利はなく、あくまで観光客のための企画でした。

駅は押すな押すなの大混雑で負傷者も出たりしたため、駅員を臨時増員、改札も増設、消防団員も警備にあたりました。構内には「一降り、二乗り、三発車」「押すと怪我する、急ぐと怪我する、騒ぐと怪我する」等の警句が表示されました。

大正12年には都々逸^{どどいつ}や当時流行した鴨緑江節^{おうりょっこうぶし}を懸賞つきで募集し、入選作は潮干狩り当日に、芸者の手踊りの合間にうたわれました。また印刷したものを駅で配布し、選にもれた作もこの年に発行する浅虫の案内書に載せて記念に残すことにしました。

歴史資料室では、このときに出された『浅虫温泉名所図絵』(大正12年)を所蔵しています。これは美しい鳥瞰図に浅虫の解説や都々逸・鴨緑江節、浅虫芸者の一覧、旅館や商店の広告が入ったもので、当時のにぎわいと浅虫の人々の意気込みが感じられます。



『浅虫温泉名所図絵』(歴史資料室蔵)